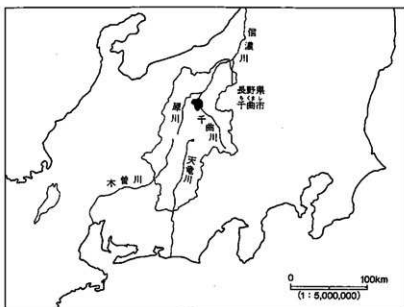


平成19年度

# 千曲市埋蔵文化財調査報告書

2009

長野県千曲市教育委員会



千曲市の位置

## 例 言 目 次

- 1 本書は、千曲市教育委員会が平成19年度に実施した埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 調査は千曲市教育委員会が主体となって実施し、文化課文化財係が担当した。

千曲市教育委員会事務局

教 育 長 安西嗣立  
 教 育 部 長 塚田保隆  
 文化課長 小林修二  
 文化財係長 矢島宏雄  
 文化財係 小野紀男  
 寺島孝典

- 3 松田館跡の執筆は小野が担当し、その他の遺跡の執筆と本書編集は寺島が行った。
- 4 本文中の遺物拓本図については1：2縮尺で掲載している。また、石器実測図については縮尺が不統一なため、それぞれ明示してある。
- 5 本文中の図版の座標値及び方位は、平面直角座標系第Ⅱ系で示している。
- 6 各遺跡の調査によって出土した遺物のほか、実測図・写真・測量成果等、調査に係るすべての資料は千曲市教育委員会が保管している。

なお、調査によって得られた資料は各遺跡に付した調査記号を記して保管されている。

### 例言・目次

埋蔵文化財調査概要	1
平成19年度埋蔵文化財調査一覧	2
発掘調査	
(1) 八幡遺跡群大道遺跡	5
(2) 栗佐遺跡群琵琶島遺跡	6
(3) 町森遺跡	7
(4) 大池南遺跡	8
I 調査の概要	8
II 遺跡の環境	9
III 遺構と遺物	10
IV まとめ	12
(5) 厩代遺跡群荒井遺跡	14
(6) 松田館跡	15
(7) 小島遺跡	17
報告書抄録	

## 埋蔵文化財調査概要

平成19年度の千曲市内における開発行為等に係る埋蔵文化財の調査件数は45件で、内訳は、発掘調査6件、試掘調査9件、立会調査30件であり、このほか学術発掘調査が1件ある。

発掘調査は民間開発に伴う調査が2件、公共事業に伴う調査が4件、学術調査が1件である。

民間開発に伴う調査では、商品市場建設に伴う八幡遺跡群大道遺跡は平成18年度からの継続調査で、2ヵ年合計で220㎡の調査を実施し、弥生時代後期の住居跡ほか多くの遺構・遺物を検出した。

変電設備建設に伴い実施された屋代遺跡群荒井遺跡の調査は32㎡と僅かな面積であったが、弥生時代中期後半の集落跡が検出されている。

公共事業については4件の内2件が複数年度にわたり実施されている調査で、千曲建設事務所発注の粟佐遺跡群の発掘調査は平成16年度から、市建設課発注の町裏遺跡の発掘調査は平成15年度からと、それぞれ年度を跨いでの調査となっている。

地方道路交付金（街路）事業に伴う粟佐遺跡群の調査は、現道の両側を拡幅する工事によるものであるが、民家あるいは商業店舗が密集する地域であり、保護対象面積に対する実質的な調査面積は約60%となる。今後も調査は継続され平成22年度に事業終了となる予定である。

平成15年度から開始されたふるさと農道桑原中道線改良に伴う町裏遺跡の発掘調査は、平成18年度に一旦中断したが平成19度再開され、合計776㎡の調査を実施し平安時代の住居跡や土坑など多くの遺構・遺物を検出し、当該事業に係る業務が完了した。

信州森の小径整備事業に伴う大池南遺跡の発掘調査は29㎡という狭い範囲であったが縄文時代の遺物が出土している。

楨生本線改良工事に伴う小島遺跡の発掘調査は平成19年度より開始された事業で、今後数年に渡って調査を継続していく予定である。

国道18号坂城更埴バイパスに伴う工事では、長野県埋蔵文化財センターによって社宮司遺跡や峯窪坂遺跡、東條遺跡など多くの遺跡の発掘調査が進められ、平成20年3月に主要地方道長野上口線までの接続が完了した。また、平成14年度から実施されている力石バイパス建設工事に伴う発掘調査も長野県埋蔵文化財センター主導が進められ、千曲市内での調査はほぼ完了し、現在は坂城町側に調査の主体が移行し順次進められている。

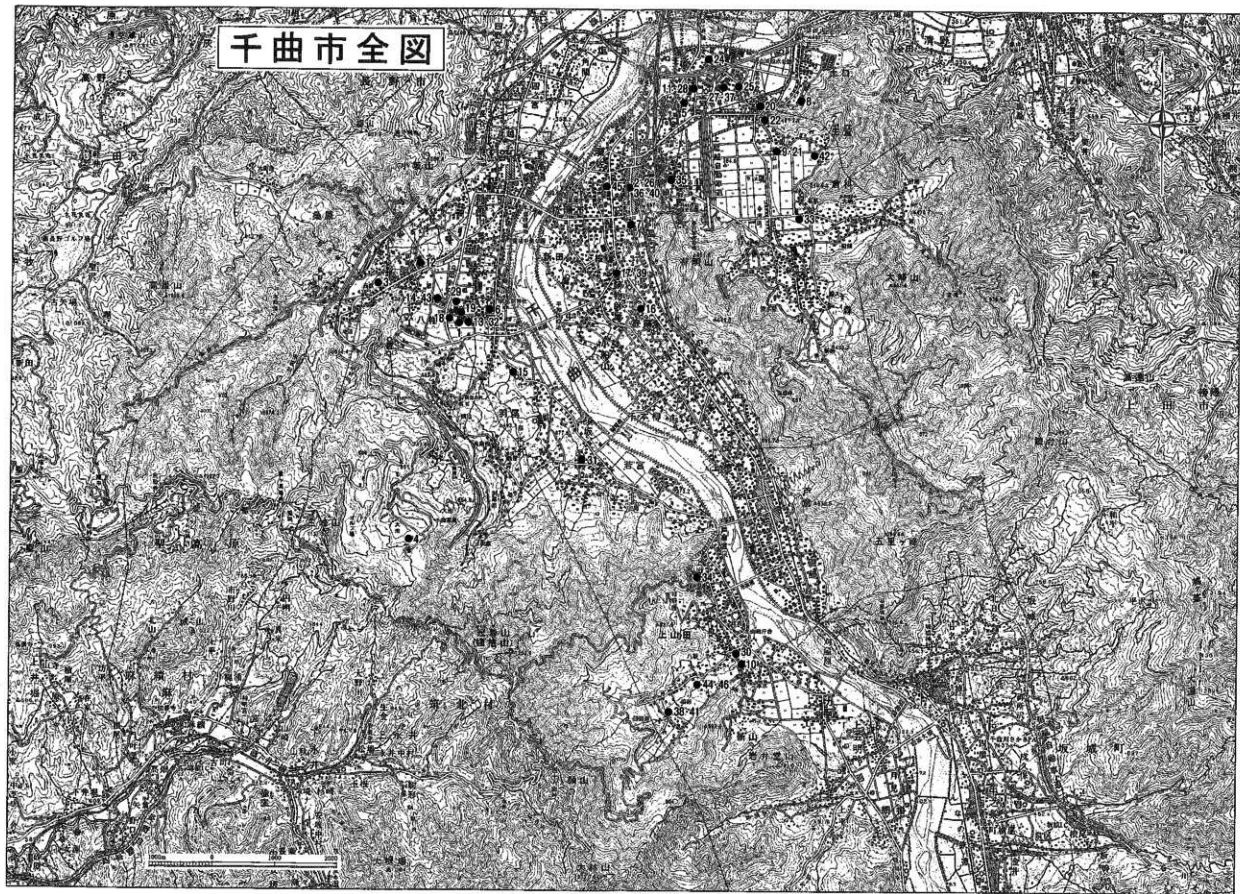
整理調査では、平成18年度に実施した長野電子工業職工場増築に伴う屋代遺跡群城ノ内遺跡発掘調査が年度末の調査であったため、報告書作成を含めた整理調査を平成19年度に実施し、屋代遺跡群荒井遺跡とともに「屋代遺跡群城ノ内遺跡10・荒井遺跡6」として平成20年3月に報告書を刊行した。また、平成18年度に実施した、都市計画道路一重山線改良工事に伴う屋代遺跡群城ノ内遺跡の整理調査も昨年度から継続しておこなっており、平成4年度から実施されている同事業に伴う一連の調査を含めた調査報告書を平成21年度刊行予定で整理を進めている。

平成15年度の市町村合併に際して発行した長野県千曲市遺跡分布図（平成17年4月1日一部改定）について、これまで実施されてきた発掘調査や試掘・立会調査など成果を基に遺跡範囲の見直しをおこない、国・県・市指定の史跡・名勝・天然記念物の指定地や指定範囲を新たに加えた「長野県千曲市遺跡分布図」を平成20年3月に刊行した。

平成19年度 埋蔵文化財調査一覧

番号	遺跡名	所在地	調査原因	事業者	調査期間	調査面積	備考
<b>発掘調査</b>							
1	八幡遺跡群大遺跡	八幡	民間=商品質場建設	長野工業㈱	19.4.2~19.4.16	100㎡	
2	栗佐遺跡群琵琶島遺跡	小島	公共=道路改良	千曲建設事務所	19.7.31~19.9.13	850㎡	
3	町表遺跡	桑原	公共=道路改良	千曲市(建設課)	19.8.20~19.9.4	240㎡	
4	大池南遺跡	八幡	公共=南牛施設整備	千曲市(農林課)	19.10.4~19.10.11	29㎡	
5	厩代遺跡群荒井遺跡	厩代	民間=変電設備建設	長野電子工業㈱	19.10.31~19.11.6	32㎡	
6	松田船跡	八幡	学術=松田家資料整備事業	千曲市(文化課)	19.11.15~19.11.26 20.3.10~20.3.28	45㎡ 100㎡	
7	小島遺跡	小島	公共=道路改良	千曲市(都市計画課)	20.1.28~20.1.31	50㎡	
<b>試掘調査</b>					調査日	調査内容・所見・備考	
8	口ノ尾遺跡	土口	民間=工場建設	サカエ技研	19.4.2	Ty2	埋蔵文化財なし
9	道南遺跡	生堂	民間=工場建設	更殖シャワーリング㈱	19.4.3	Ty2	-100~110cmで水田跡検出
10	三本木遺跡	上山田	公共=子育て支援センター建設	千曲市(福祉課)	19.5.22	Ty3	埋蔵文化財なし
11	厩代遺跡群城ノ内遺跡	厩代	民間=防火水槽建設	長野電子工業㈱	19.10.1	Ty1	埋蔵文化財なし
12	桑原遺跡群湯屋遺跡	桑原	公共=水路改修	千曲市(農林課)	19.10.15	Ty1	埋蔵文化財なし
13	八幡遺跡群	八幡	民間=商品検査台建設	長野工業㈱	19.11.8	Ty2	埋蔵文化財なし
14	八幡遺跡群	八幡	公共=道路改良	千曲市(建設課)	19.11.19	Ty4	埋蔵文化財なし
15	東條遺跡群接合地	八幡	公共=国道18号B.P.開通	長野国道工事事務所	19.11.27	Ty2	埋蔵文化財なし
16	舟山遺跡	駒形町	民間=老人福祉施設建設	メディアカルケア㈱	20.2.28	Ty2	埋蔵文化財なし
<b>立会調査</b>							
17	水引遺跡	板倉	公共=道路改良	千曲建設事務所	19.4.9	掘削-70cm	埋蔵文化財なし
18	八幡遺跡群大遺跡	八幡	民間=倉庫建設	ちくま農協	19.5.15	掘削-60cm (H19.2.15試掘調査実施)	
19	八幡遺跡群中道遺跡	八幡	民間=トラックヤード建設	北陸コカ・コーポラロジック㈱	19.5.19	掘削-80cm	埋蔵文化財なし
20	厩代遺跡群大宮遺跡	南宮	民間=集合住宅建設	個人	19.6.19	掘削-30cm	埋蔵文化財なし
21	道南遺跡	生堂	民間=工場建設	更殖シャワーリング㈱	19.6.26	掘削-50cm (H19.4.3試掘調査実施)	
22	唐崎遺跡	南宮	民間=工場建設	中島精工㈱	19.7.12	盛土	掘削なし
23	八幡遺跡群	八幡	公共=道路改良	千曲市(建設課)	19.8.27	掘削-70cm	埋蔵文化財なし
24	厩代遺跡群窪河原遺跡	厩代	公共=道路改良	千曲建設事務所	19.9.14	掘削-60cm	埋蔵文化財なし
25	厩代遺跡群北野遺跡	厩代	公共=道路改良	千曲建設事務所	19.9.14	掘削-60cm	埋蔵文化財なし
26	栗佐遺跡群琵琶島遺跡	小島	公共=道路改良	千曲建設事務所	19.9.21	掘削-70cm	埋蔵文化財なし
27	厩代遺跡群窪河原遺跡	南宮	民間=倉庫建設	㈱アセラ 長野支店	19.10.2	掘削-140cm	埋蔵文化財なし
28	厩代遺跡群城ノ内遺跡	厩代	民間=防火水槽建設	長野電子工業㈱	19.10.9	掘削-300cm (H19.10.1試掘調査実施)	
29	八幡遺跡群入道遺跡	八幡	公共=水路改修	千曲市(農林課)	19.10.16	掘削-50cm	埋蔵文化財なし
30	羽場遺跡	上山田	公共=水路改修	千曲市(農林課)	19.10.29	掘削-10cm	埋蔵文化財なし
31	仙石遺跡群	羽尾	公共=道路改良	千曲市(建設課)	19.11.2	掘削-60cm	埋蔵文化財なし
32	八幡遺跡群	八幡	民間=商品検査台建設	長野工業㈱	19.11.14	掘削-500cm (H19.11.8試掘調査実施)	
33	倉科里水田址	倉科	公共=公園造成	千曲市(都市計画課)	19.11.15	掘削-40cm	埋蔵文化財なし
34	荒砥城跡	上山田	公共=落石防護ネット布設	千曲建設事務所	19.11.26	掘削なし	
35	更殖里水田址	厩代	民間=老人福祉施設建設	社会福祉法人 大志会	19.12.13	掘削-100cm	埋蔵文化財なし
36	栗佐遺跡群琵琶島遺跡	小島	公共=道路改良	千曲建設事務所	19.12.13	掘削-70cm	埋蔵文化財なし
37	厩代遺跡群窪河原遺跡	南宮	民間=事務所建設	㈱アセラ 長野支店	20.1.9	掘削-120cm	埋蔵文化財なし
38	窪原遺跡	新山	公共=道路改良	千曲市(農林課)	20.1.18	掘削-40cm	埋蔵文化財なし
39	水引遺跡	板倉	公共=道路改良	千曲建設事務所	20.1.21	掘削-60cm	埋蔵文化財なし
40	栗佐遺跡群琵琶島遺跡	小島	公共=道路改良	千曲建設事務所	20.1.21	掘削-100cm	埋蔵文化財なし
41	窪原遺跡	新山	公共=道路改良	千曲市(農林課)	20.1.24	掘削-40cm	埋蔵文化財なし
42	生堂水田址	生堂	公共=道路改良	千曲市(建設課)	20.1.28	掘削-45cm	埋蔵文化財なし
43	八幡遺跡群	八幡	公共=道路改良	千曲市(建設課)	20.1.31	掘削-60cm	埋蔵文化財なし
44	窪原遺跡	上山田	公共=道路改良	千曲市(農林課)	20.2.6	掘削-40cm	埋蔵文化財なし
45	栗佐遺跡群南沖遺跡	栗佐	民間=倉庫建設	長野第一物流㈱	20.2.14	掘削-60cm	埋蔵文化財なし
46	釜屋遺跡	上山田	公共=道路改良	千曲市(農林課)	20.3.7	掘削-60cm	埋蔵文化財なし

\*表中の番号は、第1図中の調査位置を示した番号と一致する。



第1图 平成19年度埋藏文化財調査地点位置図(1:60,000)

# 発掘調査

## (1) 八幡遺跡群 大道遺跡

### 調査の概要

1 調査遺跡名	八幡遺跡群 大道遺跡 (千曲市遺跡台帳No.85-17 調査記号YOM)
2 所在地	千曲市大字八幡3289番地5 ほか
3 土地所有者	個人
4 調査原因	長野工業圏商品置場造成工事
5 事業者	長野工業株式会社 代表取締役 和田昭男
6 調査の内容	発掘調査 100㎡
7 調査期間	発掘調査 平成19年4月2日～平成19年4月16日 整理調査 平成19年4月23日～平成19年9月28日
8 調査費用	1,000,000円 (全額事業者負担)
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	小野紀男
調査参加者	大畠美代子・落合孝市・高野貞子・武井信哉・中村文恵・水沢邦久・山崎廣喜 米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 弥生時代～古墳時代
11 検出遺構	竪穴住居跡8棟・ピット2基
12 出土遺物	弥生時代～中世 土器片 コンテナ3箱
13 調査報告書	「八幡遺跡群 大道遺跡」平成19年10月刊行

### 調査経過と所見

平成18年度から引き続き調査を実施した。

調査予定面積220㎡の内120㎡を前年度に終了しているため、残りの100㎡について調査を行い、弥生時代後期の竪穴住居跡8棟とピット2基を検出した。平成18年度からの合計では、竪穴住居跡22棟、土坑2基、ピット8基を数え、遺物の出土量はコンテナ7箱に及ぶ。

調査は幅2m程の細長いトレンチ状の調査となり、全体を検出できた遺構は少ないが、住居跡はかなり密集している。

今回の調査地点から東へ100m程離れた場所で別工事の試掘をおこなったところ、埋蔵文化財の包蔵は全く確認できなかったことから、集落範囲の規模はそれほど大きくないことがわかった。

遺物では、弥生時代後期後半の箱清水式土器を中心に、東海系統のS字状口縁台付甕のほか、北陸系土器も比較的高い割合で混在している。

また、当該地一帯には航空写真等から条里的な地割が以前から確認されていた。今回の調査で面的な確認はできなかったものの、土層断面観察から少なくとも2枚の水田跡が確認されている。

## (2) 栗佐遺跡群 琵琶島遺跡

### 調査の概要

1 調査遺跡名	栗佐遺跡群 琵琶島遺跡 (千曲市遺跡台帳No.28-16)	調査記号 BWJ6)
2 所在地	千曲市大字小島3128番地1	ほか
3 土地所有者	長野県	
4 調査原因	平成19年度 地方道路交付金(街路)事業 旧国道線 千曲市 歴代(5)	
5 事業者	長野県千曲建設事務所長 大平友三	
6 調査の内容	発掘調査 850㎡	
7 調査期間	発掘調査 平成19年7月31日～平成19年9月13日 整理調査 平成19年10月1日～平成19年12月25日	
8 調査費用	1,800,000円 (全額事業者負担)	
9 調査主体者	千曲市教育委員会	
調査担当者	寺島孝典	
調査参加者	大谷美代子・小林直文・高野貞子・竹之内常秋・中村文恵・間嶋今朝雄 米沢須美子	
10 種別・時期	集落跡 平安時代～中世	
11 検出遺構	溝跡2基・ピット7基・畝状遺構	
12 出土遺物	平安時代～中世 土器片 コンテナ1箱	
13 調査報告書	平成22年度刊行予定	

### 調査経過と所見

当該事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は平成16年度より着手され、本年度が4年目となる。

これまで平安時代の住居跡や中世の石組み井戸跡など多くの遺構が検出されている。当該事業による発掘調査は栗佐遺跡群内に南北の細長いトレンチを設けているような調査で、場所によっては遺構や遺物が未検出となる場所もあり、これまでの調査により当時の地形や遺跡の分布状況など多くの情報を入手できている意義は大変大きいものといえる。

平成19年7月5日、発掘調査業務に係る委託契約を締結。7月23日に発注者である千曲建設事務所、施工業者の三者による埋蔵文化財保護に関する協議を実施し、7月31日から調査を開始することとなった。

今年度の調査は旧国道線の両側をおこなうもので、保護対象面積約1,900㎡を測る。これまでの事業量にない大規模な調査となる予定であったが、例年同様民家等の入口の確保や商店店舗前の掘削不能区間があるなど諸要件が重なり、最終的な調査面積は850㎡となった。

調査予定箇所ほとんどが既に破壊を受けており、調査できた面積は僅かであったが、中世の溝跡や河川跡、畝状遺構などを検出し、平成19年9月13日に現場にける発掘調査作業を終了した。

整理作業は10月1日着手し、12月25日に当該事業に係る業務が完了した。

### (3) 町裏遺跡

#### 調査の概要

1 調査遺跡名	町裏遺跡 (千曲市遺跡台帳№123 調査記号MCU)
2 所在地	千曲市大字桑原字金井1160番地1 ほか
3 土地所有者	千曲市長 近藤清一郎
4 調査原因	ふるさと農道桑原中道線改良工事
5 事業者	千曲市長 近藤清一郎 (千曲市建設部建設課)
6 調査の内容	発掘調査 240㎡
7 調査期間	発掘調査 平成19年8月20日～平成19年9月4日 整理調査 平成19年9月5日～平成20年3月31日
8 調査費用	1,174,413円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	小野紀男
調査参加者	大野美代子・高野貞子・武井信哉・中村文恵・山崎廣喜・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 弥生時代～中世
11 検出遺構	礎石建物跡1棟・自然流路1基
12 出土遺物	平安時代～中世 土器片 コンテナ1箱
13 調査報告書	「町裏遺跡」平成20年3月刊行

#### 調査経過と所見

当該事業にかかる発掘調査については平成15年度から開始され、平成17年度まで各年度実施されたが平成18年度に一旦中断し、平成19年度再開され調査完了となった。

これまでの調査で住居跡8棟(平安時代7棟・時代不明1棟)などが検出され、また遺構の確認にまでは至らなかったが縄文時代の石蔵や石匙が出土していることから周辺に縄文時代の集落が存在する可能性が考えられている。

今回の調査地点は事業箇所の最も北端に位置し、平安時代の住居跡等が検出された平成15年度調査区からは1m50cm程低地に位置している。過去の調査から低地に行くにしたがって遺物包含層が薄くなり、遺構の検出が少なくなる傾向が見て取れていたことから遺跡の北端にあたるものとして調査をおこなった。

調査は平成19年8月20日から開始し、中世と思われる礎石建物跡などを検出し9月4日に終了した。これにて発掘調査は全て終了し、続いて報告書作成に向けた整理作業を実施し平成20年3月31日の調査報告書刊行を持って当該事業に係る全ての業務を完了した。



## (4) 大池南遺跡

### I 調査の概要

1 調査遺跡名	大池南遺跡 (千曲市遺跡台帳№45-1 調査記号OM07)
2 所在地	千曲市大字八幡字八幡芝山2イ-379番地
3 土地所有者	千曲市長 近藤清一郎
4 調査原因	信州森の小径整備事業に伴う衛生施設建設工事
5 事業者	千曲市長 近藤清一郎 (千曲市経済部農林課)
6 調査の内容	発掘調査 29㎡
7 調査期間	発掘調査 平成19年10月4日～平成19年10月11日 整理調査 平成19年12月3日～平成20年3月31日
8 調査費用	210,572円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	寺島孝典
調査参加者	大畠英代子・高野貞子・中村文恵・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 縄文時代
11 検出遺構	なし
12 出土遺物	縄文時代 土器片・石器 コンテナ1箱

#### 1 調査に至る経過

平成19年9月21日、千曲市建設部農林課から八幡地籍大池付近にキャンプ場利用者の屋外衛生施設(炊事場)建設工事をおこないたいと連絡があった。

工事予定地は大池南遺跡の範囲内であり、建設工事により遺跡が破壊される恐れが高いことから発掘調査を実施し遺跡の保護を図ることとした。同日、法第94条に基づく通知が提出され、発掘調査が必要な旨、回答をおこなった。

平成19年10月1日、市農林課、工事請負業者と三者による埋蔵文化財保護協議を行い、約30㎡の発掘調査を実施することで準備に入った。調査予定地は大池案内所へと向かう林道脇に面し、大池を利用する方などが容易に立ち入ることができてしまうことから、一般客の安全確保と調査区内への進入を防ぐためのバリケードを設置していただくよう工事請負業者に依頼した。

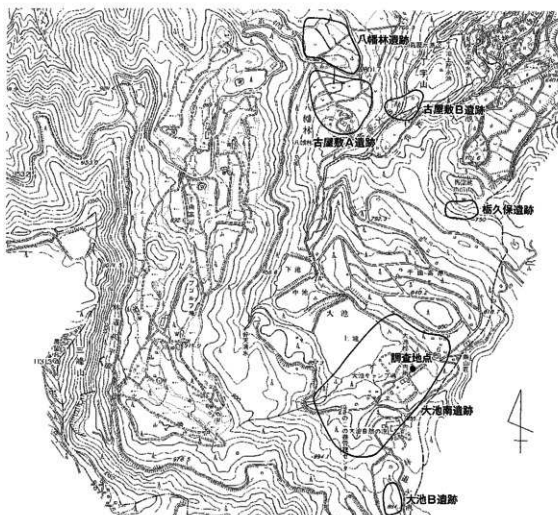
発掘調査は平成19年10月4日開始し、10月11日現場における全ての作業を終了した。

#### 2 調査日誌【平成19年】

- 10月4日(木) 調査グリッド設定。表土掘削。
- 10月5日(金) グリッド掘り下げ。
- 10月9日(火) グリッド掘り下げ。基準点調整。
- 10月10日(水) 平面図、断面図作成
- 10月11日(木) 全体写真撮影。調査終了



調査風景



第2図 調査地点と周辺の遺跡分布 (1:15,000)

## II 遺跡の環境

雑捨地区などの水田への灌漑用ため池として造成された大池には、上部から「上池」「中池」「下池」の3つの池が存在している。

大池南遺跡は上池の南側一帯に展開する縄文時代の遺跡として周知されている。これまで実施されてきた各地点での調査はトレンチ調査が主体であり、いずれも断片的な調査であるため遺跡全体の性格を把握するまでには至っていないが、縄文時代の居住域として認識されている。

近年の調査では大池市民の森整備事業に伴い平成14年度と17年度に試掘調査が実施されている。いずれもトレンチ調査であり、縄文時代早期から前期の土器片や石器が数点出土しているものの遺構は確認されていない。

また、大池市民の森建設に際しておこなわれた調査では縄文時代後期の土器が多く出土しており、高所部に縄文後期の遺物が、大池に比較的近い池畔周辺には縄文時代早期から前期の遺物が出土するという傾向は見られるが、これまでの調査が遺跡の性格を明確にできるほどの質益ではないことから、これが各時期の集落展開を意味しているものかどうかは不明である。

大池南遺跡の周辺には極久保遺跡や古屋敷遺跡など縄文時代の遺物を出土する遺跡が数多く存在し、他に平安時代の集落遺跡と考えられる大池B遺跡もある。

### Ⅲ 遺構と遺物

今回の調査地点は林道大池線から大池総合案内所へと向かう道に面した場所で、北緯36度29分06秒、東経138度05分20秒、標高834m付近に位置している。

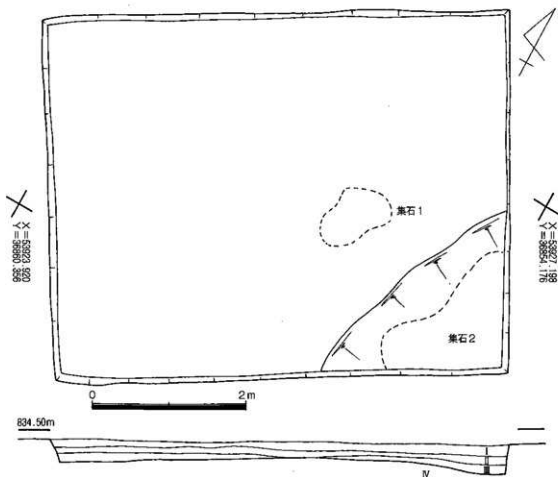
周辺でおこなわれたこれまでの調査成果から、地表から遺構確認面までの深さが20cm前後と浅いため人力により掘削することとし、範囲内にグリッドを設定し掘削と並行して土層観察をおこないながら遺構の確認作業を実施した。

#### 1 基本層序

I層は黒色の表土。II層は暗灰褐色を呈し、やや粘りのある砂質土となる。III層は灰黄褐色でしまりのない土となる。IV黄褐色で地山となり、部分的に礫を多く混入している。今回の調査において遺構確認面として設定した層である。遺物はII層及びIII層内から出土している。

#### 2 遺構

今回の調査では遺構と特定できるものは検出されなかった。ただ調査区の東隅が僅かに低くなり、そこに礫が集中して出土している。遺構確認面として設定したIV層の中にも礫が混入していることからその区別が難しく、また人為的な配置をもつと見られる状況もないため遺構としての認識はできていないが、集石2の周辺から土器（第4図1・3・4など）や石器（第4図5・6・10）、剥片が比較的多量に出土している。



第3図 全体図と土層断面図（1：50）

### 3 遺物

#### 土器

全て小破片で13点が出土し、この内の4点について図化できた。

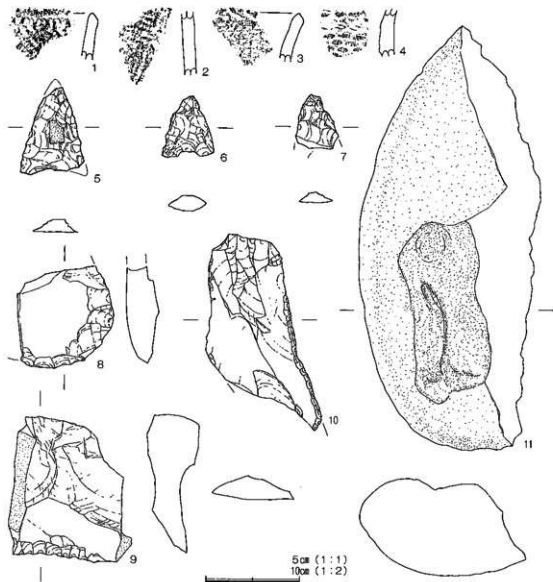
1は口縁部破片で端部に刺突によるキザミを持つ。体部には縄文が施文されている。2も体部に縄文を施し、羽状縄文となる。3は長方形の連続する押型文が施文され、口縁部には斜方向のキザミを有する。4は楕円形の押型文が施文されている。

いずれも縄文時代早期の所産と見られ、この他図化できなかった破片も同じ時期と見て良いと思われる。

また図化できなかった土器の中にも口縁部破片や尖底土器の底部付近の破片などの資料がある。

#### 石器

5は頁岩製、6と7は黒曜石製の石鏃で、7は未成品となる。8～9はスクレイパーで、8と10は硅岩製、9は頁岩製である。11は半分以上が欠損しているが表面に小さな窪みをいくつも持つ安山岩の石皿と思われる。この他、剥片などが出土している。



第4図 出土遺物実測図(1～4・11=1:2 5～10=1:1)

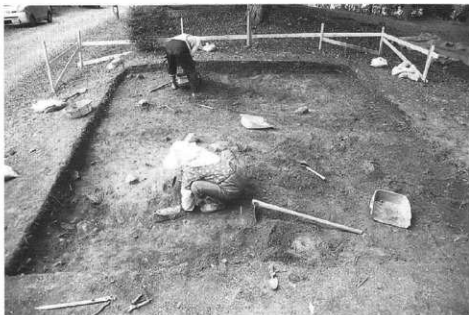
#### IV まとめ

大池南遺跡は縄文時代の遺物が散布する地域として古くから知られている。

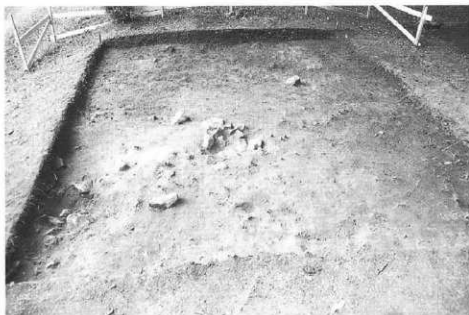
大池は現在灌漑用ため池として整備されているが、縄文時代の当時は湿地帯となっていたと思われ、この湿地帯をとりまくように縄文時代の居住域が展開していたものと考えられる。

今回の調査では遺構として認識できるものは検出されなかったが、一部に集石が認められた。人為的なものであるかどうかの判断はできないものの、周辺から土器片や石鏝などがある程度まとまって出土していることから何らかの遺構として捉えられる可能性もある。

最後に、調査遂行に際し様々な面でご協力いただいた石井工務所並びに南北信林研の関係諸氏に感謝申し上げ、本調査のまとめとする。



遺構検出・精査作業



全体写真（東から）



全体写真(北から)



探検出状況



探検出状況近景

## (5) 屋代遺跡群 荒井遺跡

### 調査の概要

1 調査遺跡名	屋代遺跡群 <sup>やしろいせきぐん</sup> 荒井遺跡 <sup>あらいいせき</sup> (千曲市遺跡台帳№31-5 調査記号ARI16)
2 所在地	千曲市大字屋代字荒井1205番地 ほか
3 土地所有者	長野電子工業株式会社 代表取締役社長 市川和成
4 調査原因	長野電子工業㈱変電設備建設工事
5 事業者	長野電子工業株式会社 代表取締役社長 市川和成
6 調査の内容	発掘調査 32㎡
7 調査期間	発掘調査 平成19年10月31日～平成19年11月6日 整理調査 平成19年11月8日～平成20年3月31日
8 調査費用	550,000円(全額事業者負担)
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	寺島孝典
調査参加者	大畠美代子・高野貞子・中村文恵・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 弥生時代～平安時代
11 検出遺構	柱列跡1基・土坑1基・溝跡1基・ピット4基
12 出土遺物	弥生時代 土器・石器 コンテナ1箱
13 調査報告書	「屋代遺跡群 城ノ内遺跡10・荒井遺跡6」平成20年3月刊行

### 調査経過と所見

平成19年10月3日、長野電子工業㈱の敷地内に変電設備の建設計画があるとの連絡があった。

当該地は屋代遺跡群荒井遺跡の範囲内にあたり、過去の調査において地表下100cm程で平安時代から弥生時代の集落跡が検出されていることから、平成19年10月16日に当該工事に伴う埋蔵文化財の保護協議をおこない、工事面積約200㎡の内、工事により遺跡を破壊する恐れのある約25㎡について記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

平成19年10月19日に発掘調査に係る業務委託契約を締結し、10月31日に発掘調査を開始した。

当初、調査面積は25㎡を予定していたが、調査区の周囲に1m弱の工事掘削が伴うこととなり、この部分についても工事により遺跡が破壊される恐れがあったことから調査対象としたため、最終的な調査面積は32㎡となった。

調査では溝跡1基と土坑1基、ピット8基が検出された。

内部から出土した土器様相から全て弥生時代中期後半の遺構と判断される。溝跡は調査区内において円形に構築され、その溝により区画された内部に土坑とピットが検出されている。8基のピットの内4基は直線的に並び全てに柱痕を持つ柱列となる。

狭い範囲での調査であるため遺構全体を把握することはできないが、その状況から弥生時代中期後半の平地住居となる可能性が高い。

## (6) 松田館跡

### 調査の概要

1 調査遺跡名	松田館跡 (千曲市遺跡台帳№214)	調査記号 MDY)
2 所在地	千曲市大字八幡3033番地1ほか	
3 土地所有者	個人	
4 調査原因	長野県宝「松田家住宅主屋」修理工事	
5 事業者	千曲市長 近藤清一郎 (千曲市教育委員会文化課)	
6 調査の内容	発掘調査	土塁部分45㎡ 主屋南側100㎡
7 調査期間	発掘調査	土塁部分 平成19年11月15日～平成19年11月26日 主屋南側 平成20年3月10日～平成20年3月28日
8 調査費用	482,415円	
9 調査主体者	千曲市教育委員会	
調査指導	吉澤政己 松田家整備委員会委員 笹沢 浩 千曲市文化財保護審議会委員	
調査担当者	矢島宏雄 小野紀男	
調査参加者	高野貞子・武井信哉・中村文恵・山崎廣喜	
10 種別・時期	城館跡 中世～近世	
11 検出遺構	礎石建物跡1棟・掘立柱建物跡2棟 など	
12 出土遺物	中世～近世 土器片 コンテナ1箱	
13 調査報告書	事業最終年度刊行予定	

### 調査経過と所見

松田家資料整備事業に伴い、水道の切り直し工事が実施されることとなり、当該工事部分となる南側土塁部分の発掘調査を実施した。また、長野県宝「松田家住宅主屋」は、寛政3年の古図によると、東側の部分が南側に5間張り出していたことがわかっている。この張り出し部及び下層の中世遺構の状況を確認するため、主屋南側の発掘調査を実施した。

#### 【南側土塁の発掘調査】

調査地点の現状は土塁の大部分が削平されており、わずかな高まりとして残っているのみであった。土塁の断面観察を行った結果、南側土塁は少なくとも2期にわたり構築されていることが確認できた。土塁の構築状況は、平成10年度に実施した西側土塁の調査成果による、Ⅰ期及びⅢ期に相当する盛土と考えられる。



礎石建物跡



西側土塁の調査では、3期に渡って構築されていたことが確認されているが、今回の調査地は、上部が削平されているため、平成10年度の調査でⅡ期とした部分の盛土が確認できなかったものと考えられる。

土塁の規模は、Ⅰ期部分で基底部幅約6mを測り、Ⅲ期の盛土で幅10m前後まで拡張している。また、Ⅲ期盛土の下から、礎石建物跡と考えられる礎石を2基検出した。土塁と直交するように検出しており、柱間の間隔は175cmを測る。

土塁基底部より内耳鍋の破片や、17世紀初頭の陶磁器片が出土している。

#### 【主屋南側の発掘調査】

調査では3面の整地面及び掘立柱建物跡、暗渠排水状遺構などを検出したが、主屋張り出し部の痕跡は確認することができなかった。

整地面は上層より第1、第2、第3整地面として調査を行った。いずれの整地面も黄褐色土を叩き締めたものであり、出土遺物から、第1整地面は19世紀代、第2整地面は17世紀以降、第3整地面は16世紀代に整地されたものと考えられる。また、第2整地面の下層には焼土や炭化物を多く含んだ層を検出していることから、火を焚いてから整地を行った可能性が考えられる。

掘立柱建物跡はいずれも第3整地面から掘り込まれており、中世の建物跡と考えられる。柱穴は7基検出しており、柱穴の検出状況から、2ないし3棟の掘立柱建物跡があったものと考えられる。

柱穴には重複関係があるため、少なくとも2回の建替えが行われていたことが推定される。このうち、2基の柱穴には柱根が残っており、樹種同定を行ったところ、クリとサクラ属であることが判明した。

今回の調査で、松田館跡には中世の遺構が全城に渡って残されていることが明らかとなった。南側土塁の調査成果と併せると、中世松田館は掘立柱建物と礎石建物で構成されていたことが推定される。



主屋南側全体

## (7) 小島遺跡

### 調査の概要

1 調査遺跡名	小島遺跡 (千曲市遺跡台帳№206)	調査記号 OJM2)
2 所在地	千曲市大字小島2811番地4 ほか	
3 土地所有者	千曲市長 近藤清一郎	
4 調査原因	都市計画道路3・4・4旧国道線 植生本線道路改良工事	
5 事業者	千曲市長 近藤清一郎 (千曲市建設部都市計画課)	
6 調査の内容	発掘調査	50㎡
7 調査期間	発掘調査	平成20年1月28日～平成20年1月31日
8 調査費用	315,091円	
9 調査主体者	千曲市教育委員会	
調査担当者	寺島孝典	
調査参加者	大畷美代子・高野貞子・中村文恵・米沢須美子	
10 種別・時期	集落跡 弥生時代～中世	
11 検出遺構	水田跡	
12 出土遺物	中世 土器片・陶磁器片 コンテナ1箱	
13 調査報告書	事業最終年度刊行予定	

### 調査経過と所見

植生本線道路改良工事は、しなの鉄道歴代駅前の旧北国街道の拡幅で、平成16年度から実施している千曲建設事務所発注の旧国道線改良事業箇所を南へ延長していった地点となる。

事業予定地は小島遺跡の範囲内にあたり、歴代駅前道路改良工事の際に発掘調査が実施されており弥生時代から中世に至る複合遺跡が存在していることが明らかとなっている。このことから、平成20年1月11日、工事発注を受け、事業主体の市都市計画課と施工業者を交えた三者による埋蔵文化財保護協議を実施し、工事着手となる前の1月下旬から調査を開始することとなった。

今回の調査は幅3m、長さ34mの水路埋設工事に先立って実施するもので、保護対象面積は約100㎡である。その内掘削不可能な25㎡を除いた75㎡を対象として調査を予定したが、隣接する駐車場への出入口を確保するため調査区を二分し、調査は北調査区と南調査区とに分けておこない、最終的な調査面積は50㎡となる。

北調査区では人頭大の礫が検出された。地元の話によれば「調査区域となっている場所に昔水路があり、近くに水車があった」という。検出された多量の礫は水路を埋めた際のものと考えられる。

南調査区は顕著な破壊は見られなかったものの、中世と考えられる水田跡が検出され、内耳鍋や陶磁器の破片が僅かながら出土した。

当該事業に伴う発掘調査は来年度以降継続して進めていく予定であるが、過去に宅地の建設の際に古墳時代から平安時代にかけての遺物が多く出土している箇所も近接するため、同時期の集落跡が検出される可能性もある。

報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうくねんど ちくしまいざうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	平成19年度 千曲市埋蔵文化財調査報告書							
副書名								
編著者名	寺島孝典 小野紀男							
編集機関	千曲市教育委員会文化課文化財係							
所在地	〒389-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地 TEL 026-275-0004							
発行年月日	2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大池南遺跡	長野県千曲市大字八幡字八幡芝山2-1-379番地	20218	45-1	36° 29' 06"	138° 05' 20"	20071004 ) 20071011	29㎡	衛生施設 建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大池南遺跡	集落跡	縄文時代		縄文時代土器・石器		縄文時代早期の遺物が出土		

平成19年度 千曲市埋蔵文化財調査報告書

発行日 平成21年3月31日  
 発行 千曲市教育委員会  
 〒389-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地  
 電話 026-275-0004  
 印刷 鬼灯書籍株式会社  
 〒389-0012 長野県長野市柳原2133番地5  
 電話 026-244-0235代

